



www.fao.org

漁業・養殖業

主な動き

世界の漁業生産量の75パーセント以上は人間が消費し、残りは主に魚粉と魚油に加工されます。

漁獲あるいは養殖で一次生産に直接携わる人の数は、2006年には4,350万人に達し、この30年で漁民や漁業者の数は世界人口や伝統的農業での雇用者数の伸びよりも速いペースで増加しています。

魚類・水産製品の輸出額は2006年に859億米ドルを超え、貿易量は今後も堅調な伸びが予想されます。開発途上国では、水産物の純輸出（輸出から輸入を差し引いたもの）がコーヒー、茶、コメ、バナナといった他の農産品の純輸出を上回っています。

世界の水産資源の約52パーセントは、「十分に利用」、すなわち許容できる最大量まで利用されています。残りの28パーセントは乱獲、枯渇、あるいは枯渇からの回復途上の状態にあります。

魚は世界の多くの地域で食の安定化に貢献しています。大多数の途上国が魚を主なタンパク源とし、中でも30カ国では動物性タンパク質の摂取量の45パーセント以上を魚が占めています。

1970年以来、養殖生産量は年平均で8.7パーセント増加しています。生産量は最新の数値で5,170万トンに達し、初めて養殖業が魚の全消費量の半分近くを供給できるようになりました。

食料、生活、貿易のための水産物

世界の海は広大に見えますが、その資源は限られ、生態系も壊れやすいものです。FAOは慎重で責任ある管理によってこうした水産資源や生態系を保護・保全できると考えています。FAOは、各国が漁業・養殖業をより効果的に管理できるよう助け、水産物が将来の世代にわたって食料、生活、貿易の重要な供給源であり続けるよう取り組んでいます。

成長分野の世界的な重要性

魚類は動物性タンパク質やさまざまな必須栄養素の優れた供給源であり、多くの地域で食料の安定化に貢献しています。2006年には世界の漁業生産量の75パーセント以上、1人当たり16.7キロが消費されました。2030年までには毎年20キロもの消費増が予測されています。残りの25パーセントは主に魚粉や魚油に加工されます。

2006年、魚類・水産製品の世界供給量は1億4,360万トンと史上最高を記録しました。この中には着実な成長を見せている養殖業の5,170万トンも含まれています。仮に全体の供

給量が世界人口の増加と歩調を合わせて伸び、また漁獲漁業の停滞が続く可能性が高いことを考えると、養殖業が将来の成長源になることが見込まれます。

漁業・養殖業は、湖や沼で魚を捕る小規模の内水漁業から、大規模な加工工場で働く人々まで、直接あるいは間接に、世界の何百万人もの人々の生活に欠かせないものとなっています。こうした人々の扶養家族まで含めると、5億2,000万人、すなわち世界人口の8パーセント近くが漁業に依存していることになります。

責任ある漁業への取り組み

1995年、FAO加盟国は、漁業・養殖業全般に関する原則や方法を定めた「責任ある漁業のための行動規範」を採択しました。漁業分野で広く採用されているこの行動規範は、漁業・養殖業の発展、管理のための方法を概説しています。FAOでは、行動規範の補完文書として漁業と養殖業に関する情報拡充のための国際的な行動計画・戦略を策定し、責任ある漁業の目標達成をさらに推進しています。行動計画では、はえ縄漁業、サメ漁、漁獲能力、違法・無報告・無規制漁業に関する対策が含まれています。



バングラデシュ・コックスバザールでの魚の水揚げ

©FAO/Giulio Napolitano

地球規模の問題に取り組む

気候変動

次第に進む地球温暖化とそれに伴う物理的な変化、さらには異常気象の頻度の増加は天然資源と生態系にますます負担を強めています。気候の変化は食料供給と生活に影響を与え、一部の漁村では漁獲高の減少、生産コストの増加、貿易機会の減少に直面しています。しかし、種の分布と個体数の変化は新たな市場を生み出す可能性を持っています。FAOでは気候変動行動計画が適切な政策・法的枠組みと連携するよう取り組むとともに、悪影響を最小限に抑え、チャンスを生かすための対策づくりに重点を置いています。

漁業・養殖業に関する情報

世界の漁業データを所蔵する唯一の機関であるFAOは、漁業・養殖業に関する信頼できる情報源という重要な役割を担っています。データ・情報の収集、整理、分析、統合を行い、さまざまな資料を作成しています。関連性の高いデータを適切なタイミングで利用者に（印刷物あるいは電子的な形で）提供しています。主なものは以下のとおりです。

- 漁業・養殖業ファクトシート：魚種、漁業資源、漁船、装備・装置、各国情報、地域漁業団体に関する豊富な情報源です。
- 『FAO 漁業・養殖業統計年鑑』（FAO Yearbook of Fishery and Aquaculture）：漁獲・養殖生産と産品に関するデータをまとめています。
- FISHINFOネットワーク：政府間・政府組織7団体とFAOの市場・貿易情報サービスのGLOBEFISHとで構成されています。販売業者と仕入れ業者を対象にした国際会議の開催、市場と価格動向に関する最新情報の提供、食品品質基準に関する研修を行っています。
- 『世界漁業・養殖業白書』：世界の漁獲漁業・養殖業の全体像を紹介する、隔年発行の包括的な報告書です。

海の安全

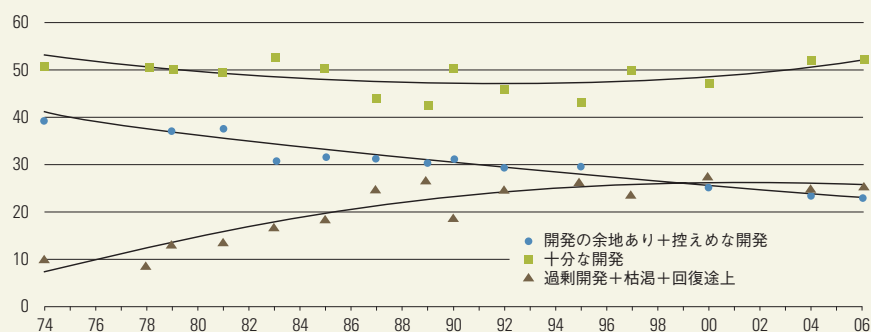
海上漁業は毎年推定2万4,000人が命を落としているとされ、おそらく世界で最も危険な仕事といえます。主な原因には船の設計、構造、装備の欠陥のみならず、船員の誤った行動、安全や正しいやり方に関する単純な認識の欠如もあります。FAOは「漁船員および漁船のための安全規定」（Code of Safety for Fishermen and Fishing Vessels）の改訂に加え、現在、国際労働機関、国際海事機関と共同で小型漁船を対象にした新たな安全基準の作成に取り組んでいます。

基準認証制度

消費者と小売の力が増すにつれ、人間の健康や漁業・養殖業の社会・環境への影響に対する関心の高まりが明らかになってきました。こうした動きを受けて、民間の基準認証制度がサプライチェーン全体で増加しています。食品の原産地の追跡（そして品質と安全の確保）を目的としている基準認証制度は、環境や社会状況にも目を向け始めています。FAOは、このような問題について中立的な国際討議の場を提供する機関として、基準作成に関する勧告のほか、官民基準の透明性、一貫性、補完性に関する指針の提供、世界基準とするための認証手続きの見直しを行っています。

1974年以降の世界の漁業資源の動向

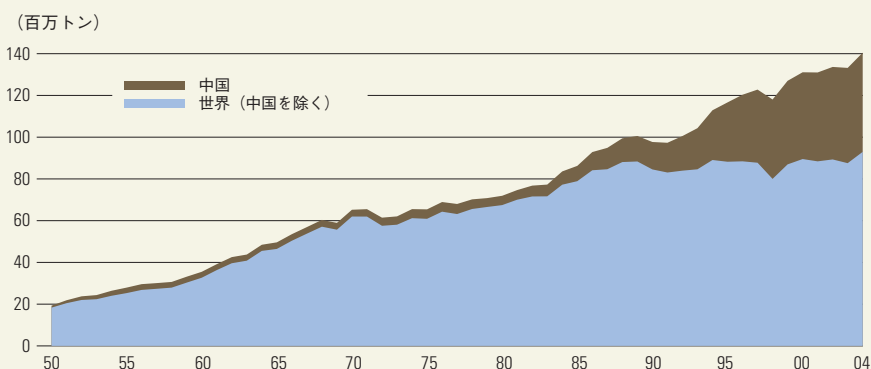
把握された資源量の割合



漁業資源の大半は乱獲に直面しています。

出所：『世界漁業・養殖業白書』2006年

世界の漁獲・養殖生産量



世界の漁獲・養殖生産量は2006年に1億4,360万トンを超え、史上最高となっています。

出所：『世界漁業・養殖業白書』2006年

